

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号

特開2022-180766

(P2022-180766A)

(43)公開日 令和4年12月7日(2022.12.7)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
E 0 6 B 3/30 (2006.01)	E 0 6 B 3/30	2 E 0 1 4
E 0 6 B 3/96 (2006.01)	E 0 6 B 3/96	2 E 0 3 5
E 0 6 B 3/263(2006.01)	E 0 6 B 3/263	G

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全22頁)

(21)出願番号	特願2021-87442(P2021-87442)	(71)出願人	000005005
(22)出願日	令和3年5月25日(2021.5.25)		不二サッシ株式会社
			神奈川県川崎市幸区鹿島田1丁目1番2号 新川崎三井ビルディング
		(74)代理人	100121496
			弁理士 中島 重雄
		(72)発明者	野田 和良
			東京都品川区西五反田4丁目3番1号 東京日産西五反田ビル 不二サッシ株式会社内
		F ターム (参考)	2E014 AA03 BA02 BA08 BB06
			2E035 AA05 BA02 CA01 CB03
			CB06 EA01

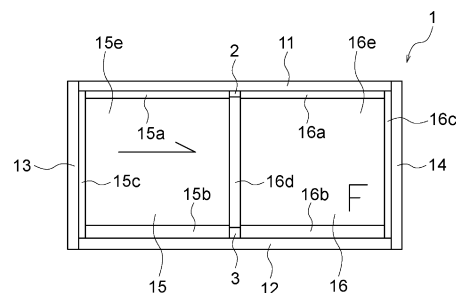
(54)【発明の名称】 方立塞ぎ部材および外動片引き窓

(57)【要約】

【課題】外動片引き窓の室内側の障子の召合せ方立の樹脂カバーから方立塞ぎ部材を容易に取り外すことにより召合せ方立の樹脂カバーのメンテナンス作業を容易に行う。

【解決手段】窓枠に固定された室内側固定障子16の召合せ方立16dが金属部材16d1およびその金属部材16d1を覆う樹脂カバー16d2で構成された外動片引き窓の召合せ方立16dの上端部および／または下端部を塞ぐ方立塞ぎ部材であって、召合せ方立16dに固定されると共に、被嵌合部が設けられた樹脂製の第1塞ぎ部材と、第1塞ぎ部材の被嵌合部に嵌合する嵌合部が設けられ、第1塞ぎ部材の被嵌合部を覆うように第1塞ぎ部材に取付けられる樹脂製の第2塞ぎ部材とを有する

【選択図】図1



10

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

窓枠に固定された室内側固定障子の召合せ方立が金属部材およびその金属部材を覆う樹脂カバーで構成された外動片引き窓の前記召合せ方立の上端部および／または下端部を塞ぐ方立塞ぎ部材であって、

前記召合せ方立に固定されると共に、被嵌合部が設けられた樹脂製の第 1 塞ぎ部材と、

前記第 1 塞ぎ部材の被嵌合部に嵌合する嵌合部が設けられ、前記第 1 塞ぎ部材の被嵌合部を覆うように前記第 1 塞ぎ部材に取付けられる樹脂製の第 2 塞ぎ部材とを有することを特徴とする方立塞ぎ部材。

【請求項 2】

請求項 1 記載の外動片引き窓の方立塞ぎ部材において、

前記第 1 塞ぎ部材および第 2 塞ぎ部材は、外動片引き窓の召合せ方立の上端部に設けられ、

前記第 1 塞ぎ部材は、前記方立の側面に対向する側面に凹部が設けられ、その凹部で前記召合せ方立に固定されると共に、その凹部が前記被嵌合部となる一方、

前記第 2 塞ぎ部材は、前記方立の側面に対向する側面に凸部が設けられ、その凸部が前記第 1 塞ぎ部材の被嵌合部である前記凹部に嵌合して前記凹部を覆うように前記第 1 塞ぎ部材に取付けられることを特徴とする方立塞ぎ部材。

【請求項 3】

請求項 1 記載の外動片引き窓の方立塞ぎ部材において、

前記第 1 塞ぎ部材および第 2 塞ぎ部材は、外動片引き窓の召合せ方立の下端部に設けられ、

前記第 1 塞ぎ部材は、前記方立の正面に対向する側面に取付孔が設けられると共に、その取付孔よりも突出した前記被嵌合部が設けられている一方、

前記第 2 塞ぎ部材は、前記方立の正面に対向する側面に前記被嵌合部に向かって突出した前記嵌合部が設けられ、前記嵌合部が前記第 1 塞ぎ部材の前記被嵌合部に嵌合して前記取付孔および前記被嵌合部を覆うように前記第 1 塞ぎ部材に取付けられることを特徴とする方立塞ぎ部材。

【請求項 4】

請求項 1～請求項 3 のいずれか一の請求項に記載の外動片引き窓の方立塞ぎ部材において、

上枠および下枠には、それぞれのレールに沿って少なくとも召合せ方立の近傍にゴム製の枠側気密材が設けられている一方、

前記第 1 塞ぎ部材および第 2 塞ぎ部材には、前記枠側気密材に弾接する塞ぎ部材側気密材が設けられていることを特徴とする方立塞ぎ部材。

【請求項 5】

窓枠に少なくとも一つの固定障子を設けた外動片引き窓であって、前記固定障子の召合せ方立に請求項 1～請求項 4 のいずれか一の請求項に記載の方立塞ぎ部材を装着したことを特徴とする外動片引き窓。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、窓枠に固定された室内側固定障子の召合せ方立が金属部材およびその金属部材を覆う樹脂カバーで構成された外動片引き窓の召合せ方立の上端部および／または下端部を塞ぐ方立塞ぎ部材に関する。

【背景技術】

【0002】

最近のサッシ窓は、高断熱性および省エネ性等を確保する観点から窓枠および障子の框がアルミ等の金属部材およびその金属部材を覆うように設けた樹脂カバーで構成した複合サッシ窓が広く普及しており、引違い窓においては、内召合框の上端部および／または下

10

20

30

40

50

端部を樹脂製の塞ぎ部材で覆っている（例えば、特許文献１）。また、マンション等においては、室内側の障子が固定（ＦＩＸ窓）で、室外側の障子が上枠および下枠に設けられたレールに沿って開閉（スライド）する外動片引き窓が多く採用されている（例えば、特許文献２）。

【０００３】

このような金属部材および樹脂カバーで窓枠および障子の框を構成した外動片引き窓においては、引違い窓における内召合框が窓枠に固定された室内側の障子の召合せ方立となり、その召合せ方立の上端部および下端部にはそれぞれ上端部と下端部とを塞ぐ方立塞ぎ部材を嵌合やネジ等に取り付け、上端部および下端部の方立塞ぎ部材がそれぞれ窓枠に係合するように構成している。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００４】

【特許文献１】特開２０００－１４５３０４号公報

【特許文献２】特開２０１９－２１８７０５号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

しかしながら、上述の外動片引き窓の方立塞ぎ部材は、窓枠に固定された室内側の障子の召合せ方立の上端部および／または下端部に嵌合やネジ等に取り付け、上端部および下端部の方立塞ぎ部材がそれぞれ窓枠に係合するように構成しているため、召合せ方立から方立塞ぎ部材を取り外すことが困難で、引違い窓の内召合框に該当する召合せ方立の樹脂カバーを交換する等、召合せ方立の樹脂カバーのメンテナンス作業が非常に困難であるという問題があった。

【０００６】

そこで、本発明はこのような問題点を解決するためなされたもので、外動片引き窓の室内側の障子の召合せ方立の樹脂カバーから方立塞ぎ部材を容易に取り外すことにより召合せ方立の樹脂カバーのメンテナンス作業を容易に行うことができる方立塞ぎ部材、およびそのような該方立塞ぎ部材を有する外動片引き窓を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

前記課題を解決するため、本発明に係る外動片引き窓の方立塞ぎ部材は、窓枠に固定された室内側固定障子の召合せ方立が金属部材およびその金属部材を覆う樹脂カバーで構成された外動片引き窓の前記召合せ方立の上端部および／または下端部を塞ぐ方立塞ぎ部材であって、前記召合せ方立に固定されると共に、被嵌合部が設けられた樹脂製の第１塞ぎ部材と、前記第１塞ぎ部材の被嵌合部に嵌合する嵌合部が設けられ、前記第１塞ぎ部材の被嵌合部を覆うように前記第１塞ぎ部材に取付けられる樹脂製の第２塞ぎ部材とを有することを特徴とする。

また、本発明に係る方立塞ぎ部材では、前記第１塞ぎ部材および第２塞ぎ部材は、外動片引き窓の召合せ方立の上端部に設けられ、前記第１塞ぎ部材は、前記方立の側面に対向する側面に凹部が設けられ、その凹部で前記召合せ方立に固定されると共に、その凹部が前記被嵌合部となる一方、前記第２塞ぎ部材は、前記方立の側面に対向する側面に凸部が設けられ、その凸部が前記第１塞ぎ部材の被嵌合部である前記凹部に嵌合して前記凹部を覆うように前記第１塞ぎ部材に取付けられることも特徴とする。

また、本発明に係る外動片引き窓の方立塞ぎ部材では、前記第１塞ぎ部材および第２塞ぎ部材は、外動片引き窓の召合せ方立の下端部に設けられ、前記第１塞ぎ部材は、前記方立の正面に対向する側面に取付孔が設けられると共に、その取付孔よりも突出した前記被嵌合部が設けられている一方、前記第２塞ぎ部材は、前記方立の正面に対向する側面に前記被嵌合部に向かって突出した前記嵌合部が設けられ、前記嵌合部が前記第１塞ぎ部材の前記被嵌合部に嵌合して前記取付孔および前記被嵌合部を覆うように前記第１塞ぎ部材に

10

20

30

40

50

取付けられることも特徴とする。

また、本発明に係る外動片引き窓の方立塞ぎ部材では、上枠および下枠には、それぞれのレールに沿って少なくとも召合せ方立の近傍にゴム製の枠側気密材が設けられている一方、前記第1塞ぎ部材および第2塞ぎ部材には、前記枠側気密材に弾接する塞ぎ部材側気密材が設けられていることも特徴とする。

また、本発明に係る外動片引き窓は、窓枠に少なくとも一つの固定障子を設けた外動片引き窓であって、前記固定障子の召合せ方立に上述のいずれかの方立塞ぎ部材を装着したことを特徴とする。

【発明の効果】

【0008】

10

本発明に係る方立塞ぎ部材は、外動片引き窓の窓枠に固定された室内側固定障子の召合せ方立に固定されると共に、被嵌合部が設けられた樹脂製の第1塞ぎ部材と、第1塞ぎ部材の被嵌合部に嵌合する嵌合部が設けられ、第1塞ぎ部材の被嵌合部の覆うように第1塞ぎ部材に取付けられる樹脂製の第2塞ぎ部材とを有する。

そのため、本発明によれば、方立塞ぎ部材が第1塞ぎ部材と第2塞ぎ部材とに分割して構成されたため、方立塞ぎ部材を1ピースで構成した従来の場合よりも、外動片引き窓の室内側の障子の召合せ方立の樹脂カバーから方立塞ぎ部材を容易に取り外すことができ、召合せ方立の樹脂カバーのメンテナンス作業を容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

20

【図1】本発明に係る実施形態1の外動片引き窓の方立塞ぎ部材が適用される外動片引き窓（室外側可動障子が1枚。）の一例を示す内観図である。

【図2】本発明に係る実施形態1の外動片引き窓の方立塞ぎ部材を設置する外動片引き窓の一例の横断面図である。

【図3】本発明に係る実施形態1の外動片引き窓の方立塞ぎ部材を設置する外動片引き窓の一例の縦断面図である。

【図4】(a)、(b)は、それぞれ、図1～図3に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に設ける本発明に係る実施形態1の方立塞ぎ部材を構成する上部第1塞ぎ部材の平面図、正面図である。

【図5】(a)、(b)は、それぞれ、図1～図3に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に設ける本発明に係る実施形態1の方立塞ぎ部材を構成する上部第1塞ぎ部材の底面図、右側面図である。

30

【図6】(a)、(b)は、それぞれ、図1～図3に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に設ける本発明に係る実施形態1の方立塞ぎ部材を構成する上部第1塞ぎ部材の左側面図、A-A線断面図である。

【図7】(a)～(c)は、それぞれ、図1～図3に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に設ける本発明に係る実施形態1の方立塞ぎ部材を構成する上部第2塞ぎ部材の平面図、正面図、右側面図である。

【図8】図1および図2に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に本発明に係る実施形態1の方立塞ぎ部材を構成する上部第1塞ぎ部材および上部第2塞ぎ部材を装着した状態を示す要部平面図（納まり図）である。

40

【図9】図1および図2に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に本発明に係る実施形態1の方立塞ぎ部材を構成する上部第1塞ぎ部材および上部第2塞ぎ部材を装着した状態を示す要部側面図（納まり図）である。

【図10】本発明に係る実施形態1の外動片引き窓の方立塞ぎ部材が適用される別の外動片引き窓（室外側可動障子が2枚。）の一例を示す内観図である。

【図11】本発明に係る実施形態2の外動片引き窓の方立塞ぎ部材を設置する外動片引き窓の一例の横断面図である。

【図12】本発明に係る実施形態2の外動片引き窓の方立塞ぎ部材を設置する外動片引き窓の一例の縦断面図である。

50

【図 1 3】(a)～(c)は、それぞれ、図 1 1 よび図 1 2 に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に取付ける本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材を構成する上部第 2 塞ぎ部材の平面図、正面図、右側面図である。

【図 1 4】図 1 1 および図 1 2 に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材を装着した状態を示す要部平面図（納まり図）である。

【図 1 5】図 1 1 および図 1 2 に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材を装着した状態を示す要部側面図（納まり図）である。

【図 1 6】(a)～(c)は、それぞれ、図 1 ～図 3 に示す外動片引き窓の召合せ方立の下端部に設ける本発明に係る実施形態 3 の方立塞ぎ部材を構成する下部第 1 塞ぎ部材の平面図、正面図、背面図である。

【図 1 7】(a), (c)は、それぞれ、図 1 ～図 3 に示す外動片引き窓の召合せ方立の下端部に設ける本発明に係る実施形態 3 の方立塞ぎ部材を構成する下部第 1 塞ぎ部材の右側面図、左側面図である。

【図 1 8】(a)～(c)は、それぞれ、図 1 ～図 3 に示す外動片引き窓の召合せ方立の下端部に設ける本発明に係る実施形態 3 の方立塞ぎ部材を構成する下部第 2 塞ぎ部材の平面図、背面図、側面図である。

【図 1 9】図 1 3 および図 1 4 に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に本発明に係る実施形態 3 の方立塞ぎ部材を構成する下部第 1 塞ぎ部材および下部第 2 塞ぎ部材を装着した状態を示す要部平面図（納まり図）である。

【図 2 0】図 1 3 および図 1 4 に示す外動片引き窓の召合せ方立の上端部に本発明に係る実施形態 3 の方立塞ぎ部材を構成する下部第 1 塞ぎ部材および下部第 2 塞ぎ部材を装着した状態を示す要部平面図（納まり図）である。

【図 2 1】(a), (b)は、それぞれ、図 1 1 よび図 1 2 に示す外動片引き窓の召合せ方立の下端部に取付ける本発明に係る実施形態 4 の方立塞ぎ部材を構成する下部第 2 塞ぎ部材の平面図、正面図である。

【図 2 2】(a), (b)は、それぞれ、図 1 1 よび図 1 2 に示す外動片引き窓の召合せ方立の下端部に取付ける本発明に係る実施形態 4 の方立塞ぎ部材を構成する下部第 2 塞ぎ部材の右側面図、左側面図である。

【図 2 3】図 1 1 および図 1 2 に示す外動片引き窓の召合せ方立の下端部に本発明に係る実施形態 4 の方立塞ぎ部材を装着した状態を示す要部平面図（納まり図）である。

【図 2 4】図 1 3 および図 1 4 に示す外動片引き窓の召合せ方立の下端部に本発明に係る実施形態 4 の方立塞ぎ部材を装着した状態を示す要部側面図（納まり図）である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

以下、本発明に係る実施形態 1, 2 の外動片引き窓およびその方立塞ぎ部材について図面を参照して説明する。尚、以下に説明する実施の形態 1, 2 の外動片引き窓およびその方立塞ぎ部材は、長さ等の数値を含めあくまで本発明の一例であり、本発明が下記に説明する実施形態に限定されるものではなく、本発明の技術的思想の範囲内で適宜変更可能である。

【0011】

実施形態 1.

本発明に係る実施形態 1 の外動片引き窓の方立塞ぎ部材 2 は、例えば、図 1 に示すような室内側の障子（以下、室内側固定障子という。）1 6 が固定（FIX）で、室外側の障子 1 5（以下、室外側可動障子という。）が窓枠のレールに沿って開閉する外動片引き窓 1 の方立の上部に設置する方立塞ぎ部材である。まずは、図 1 に示す外動片引き窓 1 の概略構成から説明する。

【0012】

＜実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 が適用される外動片引き窓 1 の構成＞

本発明に係る実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 が適用される外動片引き窓 1 は、例えば、図 1 ～図 3 に示すように、上枠 1 1、下枠 1 2、および左右の縦枠 1 3, 1 4 により四周枠

10

20

30

40

50

組みしたサッシ枠の中に、例えば下枠 12 を構成する金属製下枠 12 a の屋外側に形成されたレール 12 a 1 (図 3 等参照。)を走行する室外側可動障子 15 と、室外側可動障子 15 の内側となる屋内側に固定された室内側固定障子 16 とを納めて構成される。

【0013】

ここで、窓枠を構成する上枠 11、下枠 12、および左右の縦枠 13、14 は、それぞれ、アルミニウム等から構成される金属製上枠 11 a、金属製下枠 12 a、および金属製縦枠 13 a、14 a と、塩化ビニール樹脂等の樹脂製上枠 11 b、樹脂製下枠 12 b、および樹脂製縦枠 13 b、14 b 等から構成される。

【0014】

室外側可動障子 15 は、図 2 および図 3 に示すように、上框 15 a、下框 15 b、縦框 15 c および召合せ框 15 d で囲まれた開口部に 2 枚のガラス 15 e、15 e を所定間隔離した複層ガラスを設け、下框 15 b に設けた戸車 (図示せず。)によって下枠 12 に形成されたレール 12 a 1 上を走行できるように構成されている。

【0015】

室内側固定障子 16 は、図 2 および図 3 に示すように、上アタッチ 16 a、下アタッチ 16 b、縦アタッチ 16 c および召合せ方立 16 d で囲まれた開口部に 2 枚のガラス 16 e、16 e を所定間隔離した複層ガラスを設け、外動片引き窓 1 を構成する上枠 11 や下枠 12、内観右側の縦枠 4 にネジ等で固定して設けられている。

【0016】

上アタッチ 16 a、下アタッチ 16 b、縦アタッチ 16 c および召合せ方立 16 d は、それぞれ、高断熱性および結露防止等の観点からアルミニウム等の金属部材と塩化ビニール樹脂等の樹脂カバーで構成されており、召合せ方立 16 d もアルミニウム等の金属部材 16 d 1 および樹脂カバー 16 d 2 で構成されている。

【0017】

<実施形態 1 の外動片引き窓 1 の方立塞ぎ部材 2 の構成>

実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 は、上述のように構成された外動片引き窓 1 の召合せ方立 16 d の上端部を後述する図 8 および図 9 に示すように塞ぐ方立塞ぎ部材で、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 と、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 との 2 部材に分割して構成されている。

【0018】

(上部第 1 塞ぎ部材 2 1)

上部第 1 塞ぎ部材 2 1 は、図 8 および図 9 に示すように召合せ方立 16 d にネジ等で固定される樹脂製の部材であり、図 4 ~ 図 6 に示すような形状に形成されている。

【0019】

つまり、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 は、主に召合せ方立 16 d 上端部の室外側可動障子 15 側の側面を覆う上部第 1 塞ぎ可動障子側面部 2 1 a と、その上部第 1 塞ぎ可動障子側面部 2 1 a の室内側端部から直交するように曲がり、召合せ方立 16 d 上端部の室内側面を覆う上部第 1 塞ぎ室内側面部 2 1 b とを有する。

【0020】

上部第 1 塞ぎ可動障子側面部 2 1 a の下方には、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の後述する嵌合用凸部 2 2 a 1 が嵌合する円形に凹んだ被嵌合凹部 2 1 a 1 が形成されていると共に、その被嵌合凹部 2 1 a 1 の中心には召合せ方立 16 d 上端部の室外側可動障子 15 側面に固定するためのネジが外側から挿入されるネジ通し孔 2 1 a 2 が設けられている。そのため、被嵌合凹部 2 1 a 1 は、ネジの頭部の外径より大きい内径を有すると共に、ネジの頭部の高さおよび上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の嵌合用凸部 2 2 a 1 の突出量より大きい深さを有し、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の嵌合用凸部 2 2 a 1 が嵌合した際、ネジの頭部を隠すことができる。

【0021】

また、上部第 1 塞ぎ可動障子側面部 2 1 a の室外側端部には、召合せ方立 16 d に装着した際に、召合せ方立 16 d のゴム製の方立側気密材 16 d 3 (図 2 参照。)に連続するように 3 列並んだゴム製の塞ぎ部材側気密材 2 1 a 3 を設けている。

10

20

30

40

50

【0022】

さらに、上部第1塞ぎ可動障子側面部21aの内側面側には、ネジ通し孔21a2の上方に召合せ方立16dの金属部材16d1に設けられたネジ通し孔（上アタッチ16a1のタッピングホールと同一芯）に位置決め等のため嵌合するように円筒状に突出したネジ孔嵌合凸部21a4を設けていると共に、召合せ方立16dの金属部材16d1（図8参照。）に係合する爪部21a51を有し、召合せ方立16dに対する上部第1塞ぎ部材21の仮留め等を行う係合片21a5を設けている。係合片21a5は、ネジ通し孔21a2にネジを通す前でも上部第1塞ぎ部材21を召合せ方立16dに弾性力によって仮留めできるように室外側、すなわち塞ぎ部材側気密材21a3側に向って傾斜して設けられている。

10

【0023】

上部第1塞ぎ室内側面部21bは、上部第1塞ぎ可動障子側面部21aの正面形状に従って鉛直面部21b1と、傾斜面部21b2とを備え、傾斜面部21b2下端部には、図5(a), (b)等に応示するように上部第2塞ぎ部材22の後述する係合部22c1が挿入して係合する係合用凹部21b21を設けている。

【0024】

(上部第2塞ぎ部材22)

上部第2塞ぎ部材22は、上部第1塞ぎ部材21とは別部材で構成され、後述する図8および図9に応示するように上部第1塞ぎ部材21に嵌合して召合せ方立16dに設けられる樹脂製の部材で、図7(a)～(c)に応示するように上部第1塞ぎ部材21の上部第1塞ぎ可動障子側面部21aの外側に設けられる上部第2塞ぎ可動障子側面部22aと、その上部第2塞ぎ可動障子側面部22aの室内側端部から直交するように曲がって延び上部第1塞ぎ部材21の上部第1塞ぎ室内側面部21bの下方を塞ぐように設けられた上部第2塞ぎ室内側面部22bと、上部第2塞ぎ室内側面部22bの上端部から室外側へ直交するように曲がって召合せ方立16dの金属部材16d1および樹脂カバー16d2の間の隙間等を塞ぐ上部第2塞ぎ上側面部22cとから構成されている。

20

【0025】

上部第2塞ぎ可動障子側面部22aには、上部第1塞ぎ部材21の上部第1塞ぎ可動障子側面部21aに対向する内側面側に、上部第1塞ぎ可動障子側面部21aの凹んだネジ通し孔21a2に嵌合するU形状または半円形状ないしは一部欠落円形状の嵌合用凸部22a1が設けられている。

30

【0026】

上部第2塞ぎ上側面部22cには、室外側に向ってさらに延び、上部第1塞ぎ部材21の上部第1塞ぎ室内側面部21b下端部の係合用凹部21b21に係合する係合部22c1が設けられている。

【0027】

<実施形態1の外動片引き窓1の方立塞ぎ部材2の使用状態>

次に以上のように構成された実施形態1の外動片引き窓1の方立塞ぎ部材2の使用状態等について説明する。

【0028】

本発明に係る実施形態1の方立塞ぎ部材2を図1～図3に応示外動片引き窓1の召合せ方立16dの上端部に装着する場合、まずはこの方立塞ぎ部材2を構成する上部第1塞ぎ部材21をネジで外動片引き窓1の召合せ方立16dの上端部に固定し、次いで固定した上部第1塞ぎ部材21に対し第2塞ぎ部材22を嵌合して、図8および図9に応示するように装着する。

40

【0029】

その際、上部第1塞ぎ部材21には、上部第1塞ぎ可動障子側面部21aの内側面側に設けられた円筒状に突出したネジ孔嵌合凸部21a4を召合せ方立16dの金属部材16d1に設けられた被係合孔部16d11（図8参照。）に嵌合させて位置決め等を行うと共に、係合片21a5先端の爪部21a51を召合せ方立16dの金属部材16d1の被

50

係合部 1 6 d 1 2 (図 8 等参照。)に係合して召合せ方立 1 6 d に対し上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の仮留めを行った後、上部第 1 塞ぎ可動障子側面部 2 1 a のネジ通し孔 2 1 a 2 からネジ (図示せず。)を挿入して召合せ方立 1 6 d の金属部材 1 6 d 1 の上端部に固定する。

【0030】

そのため、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 は、召合せ方立 1 6 d の上端部にネジで固定する前に、上部第 1 塞ぎ可動障子側面部 2 1 a の内側面に設けたネジ孔嵌合凸部 2 1 a 4 で位置合わせ等を行うことができると共に、係合片 2 1 a 5 により召合せ方立 1 6 d に仮留めを行うことができるので、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の装着時の作業性を向上させることができる。

【0031】

次に、召合せ方立 1 6 d の上端部に取付けた上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の外側から覆うように上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の上部第 2 塞ぎ可動障子側面部 2 2 a の嵌合用凸部 2 2 a 1 (図 7 等参照。)を上部第 1 塞ぎ部材 2 1 のネジ通し孔 2 1 a 2 (図 4 等参照。)に嵌合すると共に、係合部 2 2 c 1 を上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の上部第 1 塞ぎ室内側面部 2 1 b 下端部の係合用凹部 2 1 b 2 1 に係合することにより上部第 1 塞ぎ部材 2 1 に上部第 2 塞ぎ部材 2 2 を取付け、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 および上部第 2 塞ぎ部材 2 2 からなる実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 の装着が完了する。

【0032】

そして、内召合框である召合せ方立 1 6 d の樹脂カバー 1 6 d 2 を交換する等、召合せ方立 1 6 d のメンテナンス作業を行う場合には、召合せ方立 1 6 d の上端部では、以上説明した実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 の装着作業とは逆の作業、すなわちまずは上部第 1 塞ぎ部材 2 1 から上部第 2 塞ぎ部材 2 2 を取り外し、その後、そのネジを取り外して召合せ方立 1 6 d から上部第 1 塞ぎ部材 2 1 を取り外して召合せ方立 1 6 d の樹脂カバー 1 6 d 2 を交換する等、召合せ方立 1 6 d のメンテナンス作業を行えば良い。

【0033】

<本発明に係る実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 のまとめ>

従って、本発明に係る実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 は、外動片引き窓 1 の窓枠に固定された室内側固定障子 1 6 の召合せ方立 1 6 d に固定されると共に、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の嵌合用凸部 2 2 a 1 が嵌合する被嵌合凹部 2 1 a 1 が設けられた樹脂製の上部第 1 塞ぎ部材 2 1 と、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の被嵌合凹部 2 1 a 1 に嵌合する嵌合用凸部 2 2 a 1 が設けられ、その被嵌合部 2 1 a 1 を覆うように上部第 1 塞ぎ部材 2 1 に取付けられる樹脂製の上部第 2 塞ぎ部材 2 2 とを有する。

【0034】

そのため、実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 は、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 と上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の 2 部材に分割して構成され、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 は上部第 1 塞ぎ部材 2 1 に対し嵌合用凸部 2 2 a 1 と被嵌合凹部 2 1 a 1 による嵌合によって取り付けられているため、外動片引き窓 1 の召合せ方立 1 6 d から容易に取り外すことが可能であり、外動片引き窓 1 の召合せ方立 1 6 d の樹脂カバー 1 6 d 2 の交換等の召合せ方立 1 6 d のメンテナンス作業を容易に行うことができる。

【0035】

特に、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の被嵌合凹部 2 1 a 1 は、召合せ方立 1 6 d に上部第 1 塞ぎ部材 2 1 を固定するネジの頭部の外径より大きい内径を有すると共に、そのネジの頭部の高さおよび上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の嵌合用凸部 2 2 a 1 の突出量より大きい深さを有するため、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の嵌合用凸部 2 2 a 1 が嵌合した際、ネジの頭部を隠すことができ、意匠性も向上させることができる。

【0036】

また、本発明に係る実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 では、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の上部第 1 塞ぎ室内側面部 2 1 b には、図 5 (a), (b) 等のように係合用凹部 2 1 b 2 1 を設ける一方、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の上部第 2 塞ぎ室内側面部 2 2 b の上端部には、そ

10

20

30

40

50

の係合用凹部 2 1 b 2 1 に係合する係合部 2 2 c 1 を設けている。

【0037】

そのため、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 に対し上部第 2 塞ぎ部材 2 2 をより確実に取り付けることができる。

【0038】

また、本発明に係る実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 では、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 には、召合せ方立 1 6 d の金属部材 1 6 d 1 の被係合部 1 6 d 1 2 (図 8 等参照。) に係合する係合片 2 1 a 5 の爪部 2 1 a 5 1 を設けている。

【0039】

そのため、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 を召合せ方立 1 6 d に取付ける際、係合片 2 1 a 5 の爪部 2 1 a 5 1 によって上部第 1 塞ぎ部材 2 1 を召合せ方立 1 6 d に仮留めすることが可能となるので、方立塞ぎ部材 2 の取付け作業性を向上させることができる。

【0040】

また、本発明に係る実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 では、外動片引き窓 1 の上枠 1 1 および下枠 1 2 には、それぞれのレールに沿って少なくとも召合せ方立 1 6 d の近傍にゴム製の枠側気密材 1 1 c , 1 2 c を設ける一方、上側第 1 塞ぎ部材 2 1 には、上枠 1 1 の枠側気密材 1 1 c に弾接する塞ぎ部材側気密材 2 1 a 3 を設けている。

【0041】

そのため、実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 を召合せ方立 1 6 d に装着すると、召合せ方立 1 6 d の上端部において上側第 1 塞ぎ部材 2 1 の塞ぎ部材側気密材 2 1 a 3 上端部が枠側気密材 1 1 c に弾接するので、外動片引き窓 1 の召合せ方立 1 6 d 上端部の気密性および水密性をより向上させることができる。

【0042】

尚、上記実施形態 1 の説明では、図 1 に示すように室内側固定障子 1 6 の片側に 1 枚の室外側可動障子 1 5 を開閉可能に設けた外動片引き窓 1 を一例に説明したが本発明では、これに限らず、例えば、図 10 に示す室内側固定障子 1 6 ' の両側にそれぞれ室外側可動障子 1 5 ' を設けた外動片引き窓 1 ' に適用するようにしても勿論良い。

【0043】

実施形態 2 .

次に、本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ' について説明する。上記実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 の説明では、図 2 や図 3 に示すように高さ寸法が小さい外動片引き窓の室内側への突出量が小さい召合せ方立 1 6 d に取付ける方立塞ぎ部材 2 を一例に説明したが、実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ' では、高さ寸法が大きい外動片引き窓の室内側への突出量が大きい召合せ方立 1 6 d ' に取付ける方立塞ぎ部材について説明する。

【0044】

図 1 1 は本発明に係る実施形態 2 の外動片引き窓の方立塞ぎ部材 2 ' を設置する外動片引き窓 1 " の横断面図、図 1 2 はその縦断面図である。尚、図 1 1 および図 1 2 に示す外動片引き窓 1 " において、図 2 および図 3 に示す外動片引き窓 1 と同じ構成には、同じ符号を付して説明を省略する。

【0045】

図 1 1 および図 1 2 に示す外動片引き窓 1 " では、召合せ方立 1 6 d " の室内側への突出量が、図 2 および図 3 に示す外動片引き窓 1 の召合せ方立 1 6 d の室内側への突出量よりも大きい点のみが異なり、召合せ方立 1 6 d " の横幅である見付け寸法は、図 2 および図 3 に示す外動片引き窓 1 の召合せ方立 1 6 d と同じである。

【0046】

そのため、本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ' では、第 1 塞ぎ部材として上述した実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 の上部第 1 塞ぎ部材 2 1 と同じ物を使用し、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 ' のみ異なる物を使用する。

【0047】

図 1 3 (a) ~ (c) は、それぞれ、図 1 1 よび図 1 2 に示す外動片引き窓 1 " の召合せ

10

20

30

40

50

方立 1 6 d ” の上端部に取付ける本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ を構成する上部第 2 塞ぎ部材 2 2 ’ の平面図、正面図、右側面図である。

【 0 0 4 8 】

図 1 3 (a) ~ (c) に示す実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ を構成する上部第 2 塞ぎ部材 2 2 ’ は、図 1 1 よび図 1 2 に示す外動片引き窓 1 ” の召合せ方立 1 6 d ” 上端部に設けるため、上部第 2 塞ぎ室内側面部 2 2 b ’ の横幅である見付け寸法は同じであるものの、召合せ方立 1 6 d ” を構成する金属部材 1 6 d 1 ” および樹脂カバー 1 6 d 2 ” の室内方向への突出量である見込み寸法が大きいいため、上部第 2 塞ぎ可動障子側面部 2 2 a ’ の見込み寸法を実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 を構成する上部第 2 塞ぎ部材 2 2 の上部第 2 塞ぎ可動障子側面部 2 2 a よりも大きく形成すると共に、上部第 2 塞ぎ上側面部 2 2 c ’ の見込み寸法も大きく形成し、さらには上部第 2 塞ぎ可動障子側面部 2 2 a ’ に対向するように第 2 塞ぎ可動障子反対面部 2 2 d ’ を設けている。

10

【 0 0 4 9 】

そして、上部第 2 塞ぎ可動障子側面部 2 2 a ’ には、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の上部第 1 塞ぎ可動障子側面部 2 1 a に対向する内側面側に、実施形態 1 の嵌合用凸部 2 2 a 1 と同様に上部第 1 塞ぎ可動障子側面部 2 1 a の凹んだネジ通し孔 2 1 a 2 に嵌合する嵌合用凸部 2 2 a 1 ’ を設けている。

【 0 0 5 0 】

なお、召合せ方立 1 6 d ” の金属部材 1 6 d 1 ” および樹脂カバー 1 6 d 2 ” の室内側方向への室内方向への突出量が大きいいため、上部第 2 塞ぎ上側面部 2 2 c ’ には、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 の上部第 1 塞ぎ室内側面部 2 1 b 下端部の係合用凹部 2 1 b 2 1 に係合する係合部 2 2 c 1 ではなく、上部第 2 塞ぎ上側面部 2 2 c ’ の下面側に、金属部材 1 6 d 1 ” および樹脂カバー 1 6 d 2 ” の左右上端部の隙間に挿入され、先端部の爪部 2 2 c 1 1 ’ が金属部材 1 6 d 1 ” に形成された被係合孔部 1 6 d 1 1 ” (図 1 4 , 図 1 5 参照。) 等に係合する一対の係合部 2 2 c 1 ’ , 2 2 c 1 ’ を設けている。

20

【 0 0 5 1 】

以上のように構成された実施形態 2 の上部第 2 塞ぎ部材 2 2 ’ と、実施形態 1 の上部第 1 塞ぎ部材 2 1 とにより本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ が構成可能となり、このような 2 部材で構成された実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ を使用して図 1 1 よび図 1 2 に示す外動片引き窓 1 ” の召合せ方立 1 6 d ” の上端部に装着すると、図 1 4 および図 1 5 に示すように本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ を取付けることができる。

30

【 0 0 5 2 】

＜本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ のまとめ＞

従って、本発明に係る実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ によれば、実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 と同様に、上部第 1 塞ぎ部材 2 1 と上述の上部第 2 塞ぎ部材 2 2 ’ の 2 部材に分割して構成したため、実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 と同様に外動片引き窓 1 の召合せ方立 1 6 d ” から容易に取り外すことが可能となり、外動片引き窓 1 ” の召合せ方立 1 6 d ” の樹脂カバー 1 6 d 2 ” の交換等の召合せ方立 1 6 d ” のメンテナンス作業を容易に行うことができる。

【 0 0 5 3 】

特に、実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ では、実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 の上部第 1 塞ぎ部材 2 1 と同じ物を使用することができ、上部第 2 塞ぎ部材 2 2 ’ のみ異なる物を用意すれば対応することができるため、製造コストや管理コストを低減することができる。

40

【 0 0 5 4 】

また、実施形態 2 の方立塞ぎ部材 2 ’ の場合も、実施形態 1 の方立塞ぎ部材 2 と同様に、図 1 に示すような室内側固定障子 1 6 の片側 1 枚の室外側可動障子 1 5 を開閉可能に設けた外動片引き窓 1 に適用するだけでなく、図 1 0 に示すような室内側固定障子 1 6 ’ の両側にそれぞれ室外側可動障子 1 5 ’ を設けた外動片引き窓 1 ’ に適用することができる。

【 0 0 5 5 】

実施形態 3 .

50

上記実施形態 1, 2 の方立塞ぎ部材 2, 2' では、図 1 や図 10 に示す外動片引き窓 1, 1' の召合せ方立 16d, 16d' の上端部を塞ぐ方立塞ぎ部材で説明したが、上記実施形態 3 の方立塞ぎ部材 3 は、図 1 や図 10 に示す外動片引き窓 1, 1' の召合せ方立 16d, 16d' の下端部を塞ぐ方立塞ぎ部材で説明する。

【0056】

図 16(a)~(c) は、それぞれ、図 1~図 3 および図 10 に示す外動片引き窓 1 の召合せ方立 16d, 16d' の下端部に設ける本発明に係る実施形態 3 の方立塞ぎ部材 3 を構成する下部第 1 塞ぎ部材 31 の平面図、正面図、背面図、図 17(a), (b) は、実施形態 3 の方立塞ぎ部材 3 を構成する下部第 1 塞ぎ部材 31 の右側面図、左側面図である。

【0057】

10

＜実施形態 3 の外動片引き窓の方立塞ぎ部材 3 の構成＞

実施形態 3 の方立塞ぎ部材 3 は、図 1~図 3 および図 10 に示すように構成された外動片引き窓 1, 1' の召合せ方立 16d, 16d' の下端部を、後述する図 19 および図 20 に示すように塞ぐ方立塞ぎ部材で、下部第 1 塞ぎ部材 31 と、下部第 2 塞ぎ部材 32 との 2 部材に分割して構成されている。

【0058】

(下部第 1 塞ぎ部材 31)

下部第 1 塞ぎ部材 31 は、後述する図 19 および図 20 に示すように召合せ方立 16d の下端部にネジ等で固定される樹脂製の部材であり、図 16 および図 17 に示すような形状に形成されている。

20

【0059】

つまり、下部第 1 塞ぎ部材 31 は、主に召合せ方立 16d 下端部の室外側可動障子 15 側面を覆う下部第 1 塞ぎ可動障子側面部 31a と、その下部第 1 塞ぎ可動障子側面部 31a の室内側端部から直交するように曲がり召合せ方立 16d 下端部の室内側面を覆う下部第 1 塞ぎ室内側面部 31b と、下部第 1 塞ぎ室内側面部 31b の下端部から直交するように曲がって召合せ方立 16d の下端部を覆う下部第 1 塞ぎ下側面部 31c を有する。

【0060】

下部第 1 塞ぎ可動障子側面部 31a の下方には、外動片引き窓 1 の下枠 12 のレール 12a1 を避けるため例えば、台形状に凹んだレール用凹部 31a1 が設けられていると共に、縦枠 13 と室外側可動障子 15 の戸先側の縦框 15c との間に小開口の換気スペースを設けるために、室外側可動障子 15 の下框 15b に取り付けられた換気用サブブロック（図示せず。）が当接する縦枠 13 側に向って突出した突出部 31a2 が設けられている。

30

【0061】

また、下部第 1 塞ぎ可動障子側面部 31a の室外側端部には、召合せ方立 16d に装着した際に、召合せ方立 16d のゴム製の方立側気密材 16d3（図 2 参照。）に連続するように 3 列並んだゴム製の塞ぎ部材側気密材 31a3 が設けられていると共に、下部第 1 塞ぎ可動障子側面部 31a の内側には、召合せ方立 16d の金属部材 16d1 のネジ孔に通して位置決め等を行うための位置決め用凸部 31a4 が設けられている。

【0062】

一方、下部第 1 塞ぎ室内側面部 31b には、召合せ方立 16d の金属部材 16d1 下端部に設けられたネジ孔にネジを通して下部第 1 塞ぎ部材 31 を召合せ方立 16d の金属部材 16d1 下端部に固定するためのネジ通し孔 31b1 が設けられていると共に、下部第 2 塞ぎ部材 32 の後述する一対の嵌合片 32b, 32b が嵌合するように先端部に嵌合爪を有する一対の被嵌合片 31b2, 31b2 が設けられている。

40

【0063】

下部第 1 塞ぎ下側面部 31c には、一対の被嵌合片 31b2, 31b2 と同方向で下部第 1 塞ぎ可動障子側面部 31a の室内側端部と同じ長さまで突出して、下部第 1 塞ぎ可動障子側面部 31a の室内側端部と共に下部第 2 塞ぎ部材 32 を受ける下部第 2 塞ぎ部材受け部 31c1 が設けられている。そのため、下部第 1 塞ぎ部材 31 に下部第 2 塞ぎ部材 32 が取り付けられた際に、下部第 2 塞ぎ部材受け部 31c1 が設けられていない部分は、

50

下部第2塞ぎ部材32を取り外す作業等を行う際に工具等の先端を差し込むための作業用凹部31c2となる。

【0064】

(下部第2塞ぎ部材32)

下部第2塞ぎ部材32は、下部第1塞ぎ部材31の下部第1塞ぎ室内側面部31bに対向するように取付けられるもので、図18～図20に示すように召合せ方立16dの樹脂カバー16d2に形成された一对の取付孔部16d21, 16d21(図19, 図20参照。)に嵌合する一对の嵌合突起32a, 32aが設けられていると共に、一对の嵌合突起32a, 32aの下方には下部第1塞ぎ室内側面部31bの一对の被嵌合片31b2, 31b2(図17参照。)に嵌合する一对の嵌合片32b, 32bが設けられている。

10

【0065】

これら一对の嵌合突起32a, 32aおよび嵌合片32b, 32bにより、下部第2塞ぎ部材32は、召合せ方立16dおよび下部第1塞ぎ部材31にネジやビス等を使用しなくても確実に装着することができる。

【0066】

<実施形態3の外動片引き窓の方立塞ぎ部材3の使用状態>

次に以上のように構成された実施形態3の外動片引き窓の方立塞ぎ部材3の使用状態等について説明する。

【0067】

本発明に係る実施形態3の方立塞ぎ部材3を図1～図3に示す外動片引き窓1の召合せ方立16dの下端部に装着する場合、まずはこの方立塞ぎ部材3を構成する下部第1塞ぎ部材31をネジで召合せ方立16dの下端部に固定し、次いでその固定した下部第1塞ぎ部材31に対し下部第2塞ぎ部材32を装着して、図19および図20に示すように装着する。

20

【0068】

その際、下部第1塞ぎ部材31の下部第1塞ぎ可動障子側面部31a内側の位置決め用凸部31a4を召合せ方立16dの金属部材16d1のネジ孔に通して位置決めした後に下部第1塞ぎ部材31をネジで召合せ方立16dに固定することができるので、取付け作業性を向上させることができる。

【0069】

また、下部第1塞ぎ部材31に下部第2塞ぎ部材32を装着する際は、下部第2塞ぎ部材32上方の嵌合突起32a, 32aを召合せ方立16dの樹脂カバー16d2に形成された一对の取付孔部16d21, 16d21(図19, 図20参照。)に嵌合させると共に、下部第2塞ぎ部材32下方の一对の嵌合片32b, 32bを下部第1塞ぎ部材31の下部第1塞ぎ室内側面部31bの一对の被嵌合片31b2, 31b2に嵌合させる。これにより、下部第1塞ぎ部材31への下部第2塞ぎ部材32の装着が完了するので、召合せ方立16dへの実施形態3の方立塞ぎ部材3の装着が完了する。

30

【0070】

そして、召合せ方立16dの樹脂カバー16d2を交換する等、召合せ方立16dのメンテナンス作業を行う場合には、召合せ方立16dの下端部では、以上説明した実施形態3の方立塞ぎ部材3の装着作業とは逆の作業、すなわちまずは下部第1塞ぎ部材31から下部第2塞ぎ部材32を取り外し、その後、そのネジを取り外して召合せ方立16dから下部第1塞ぎ部材31を取り外して召合せ方立16dの樹脂カバー16d2を交換する等、召合せ方立16dのメンテナンス作業を行えば良い。

40

【0071】

尚、下部第1塞ぎ部材31から下部第2塞ぎ部材32を取り外す際、下部第1塞ぎ下側面部31cの作業用凹部31c2に工具等の先端を差し込んで引いたり、工具等を起こすことにより下部第2塞ぎ部材32を容易に取り外すことができる。

【0072】

<本発明に係る実施形態3の方立塞ぎ部材3のまとめ>

50

以上説明したように本発明に係る実施形態3の方立塞ぎ部材3は、外動片引き窓1の召合せ方立16dに固定されると共に、下部第2塞ぎ部材32の嵌合片32b、32bが嵌合する被嵌合片31b2、31b2が設けられた樹脂製の上部第1塞ぎ部材21と、下部第1塞ぎ部材31の被嵌合片31b2、31b2に嵌合する嵌合片32b、32bが設けられ、その被嵌合片31b2、31b2を覆うように下部第1塞ぎ部材31に装着される樹脂製の下部第2塞ぎ部材32とを有する。

【0073】

そのため、実施形態3の方立塞ぎ部材3は、下部第1塞ぎ部材31と下部第2塞ぎ部材32の2部材に分割して構成し、下部第2塞ぎ部材32は下部第1塞ぎ部材31に対し嵌合片32b、32bと被嵌合片31b2、31b2による嵌合によって装着されるため、外動片引き窓1の召合せ方立16dから容易に取り外すことが可能であり、外動片引き窓1の召合せ方立16dの樹脂カバー16d2の交換等の召合せ方立16dのメンテナンス作業を容易に行うことができる。

【0074】

特に、下部第2塞ぎ部材32は、下部第1塞ぎ部材31の下部第1塞ぎ室内側面部31bに設けられ、下部第1塞ぎ部材31を召合せ方立16dに固定するネジの頭部およびそのネジを通すネジ通し孔31b1を隠すため、意匠性も向上させることができる。

【0075】

また、本発明に係る実施形態3の方立塞ぎ部材3では、下部第1塞ぎ可動障子側面部31aの内側に召合せ方立16dの金属部材16d1のネジ孔に通して位置決め等を行うための位置決め用凸部31a4を設けている。

【0076】

そのため、下部第1塞ぎ部材31を召合せ方立16dに取付ける際、位置決め用凸部31a4によって下部第1塞ぎ部材31を召合せ方立16dに位置決めすることが容易となるので、方立塞ぎ部材3の取付け作業性を向上させることができる。

【0077】

また、本発明に係る実施形態3の方立塞ぎ部材3では、外動片引き窓1の下枠12には、それぞれのレール12a1に沿って少なくとも召合せ方立16dの近傍にゴム製の枠側気密材12cを設ける一方、下側第1塞ぎ部材31には、下枠12の枠側気密材12cに弾接する塞ぎ部材側気密材31a3を設けている。

【0078】

そのため、実施形態3の方立塞ぎ部材3を召合せ方立16dに装着すると、召合せ方立16dの下端部において下側第1塞ぎ部材31の塞ぎ部材側気密材31a3下端部が枠側気密材12cに弾接するので、外動片引き窓1の召合せ方立16d下端部の気密性および水密性をより向上させることができる。

【0079】

尚、上記実施形態3の説明では、上記実施形態1、2の場合と同様に図1に示す室内側固定障子16の片側に1枚の室外側可動障子15を開閉可能に設けた外動片引き窓1を一例に説明したが、実施形態3の方立塞ぎ部材3についても、これに限らず、例えば、図10に示す室内側固定障子16'の両側にそれぞれ室外側可動障子15'を設けた外動片引き窓1'に適用することができる。

【0080】

実施の形態4.

次に、本発明に係る実施形態4の方立塞ぎ部材3'について説明する。上記実施形態3の方立塞ぎ部材3の説明では、図2や図3に示すように高さ寸法が小さい外動片引き窓の室内側への突出量が小さい召合せ方立16dの下端部に取付ける方立塞ぎ部材3を一例に説明したが、実施形態4の方立塞ぎ部材3'では、実施形態2の方立塞ぎ部材2'と同様に図11および図12に示すような高さ寸法が大きい外動片引き窓の室内側への突出量が大きい外動片引き窓1''の召合せ方立16d'''に取付ける方立塞ぎ部材について説明する。

【0081】

10

20

30

40

50

そのため、本発明に係る実施形態４の方立塞ぎ部材３’では、下部第１塞ぎ部材としては上述した実施形態３の方立塞ぎ部材３の下部第１塞ぎ部材３１と同じ物を使用し、下部第２塞ぎ部材３２’のみ異なる物を使用する。

【００８２】

図２１（ａ），（ｂ）は、それぞれ、それぞれ、図１１および図１２に示す外動片引き窓１”の召合せ方立１６ｄ”の下端部に取付ける本発明に係る実施形態４の方立塞ぎ部材３’を構成する上部第２塞ぎ部材３２’の平面図、右側面である。また、図２２（ａ），（ｂ）は、それぞれ、本発明に係る実施形態４の方立塞ぎ部材３’を構成する上部第２塞ぎ部材３２’の正面図、背面図である。

【００８３】

実施形態４の方立塞ぎ部材３’を構成する下部第２塞ぎ部材３２’は、図１１および図１２に示す外動片引き窓１”の召合せ方立１６ｄ”下端部に固定した実施形態３の方立塞ぎ部材３の下部第１塞ぎ部材３１に装着するため、実施形態３の方立塞ぎ部材３を構成する下部第２塞ぎ部材３２（図１８参照。）と横幅である見付け寸法は同じであるものの、召合せ方立１６ｄ”を構成する金属部材１６ｄ１”および樹脂カバー１６ｄ２”の室内方向への突出量である見込み寸法が大きいため、図２１（ａ），（ｂ）および図２２（ａ），（ｂ）に示すように下部第１塞ぎ部材３１の下部第１塞ぎ室内側面部３１ｂ（図１６および図１７参照。）に対向するように装着される下部第２塞ぎ室内側面部３２ａ’と、下部第２塞ぎ室内側面部３２ａ’の上端部から９０度曲がって室内側に向って延び召合せ方立１６ｄ”の下端部を覆う下部第２塞ぎ下側面部３２ｂ’と、下部第２塞ぎ下側面部３２ｂ’の左右両側の端部から小さく起立する下部第２塞ぎ左右起立面部３２ｃ’，３２ｃ’と、下部第２塞ぎ下側面部３２ｂ’の室内側である前端部から小さく起立する下部第２塞ぎ前側起立面部３２ｄ’とから図２１（ｂ）に示すようにＬ字形状に構成されている。

【００８４】

そして、下部第２塞ぎ室内側面部３２ａ’には、下部第１塞ぎ室内側面部３１ｂの一对の被嵌合片３１ｂ２，３１ｂ２（図１６，図１７（ａ）等参照。）に嵌合する一对の嵌合片３２ａ１’，３２ａ１’を設ける一方、下部第２塞ぎ前側起立面部３２ｄ’には、召合せ方立１６ｄ”の樹脂カバー１６ｄ２”に設けられた一对の取付孔部１６ｄ２１”，１６ｄ２１”（図２３参照。）に嵌合する一对の嵌合突起３２ｄ１’，３２ｄ１’を設けている。

【００８５】

つまり、実施形態４では、下部第２塞ぎ室内側面部３２ａ’の嵌合片３２ａ１’，３２ａ１’が実施形態３の下部第２塞ぎ部材３２下部の嵌合片３２ｂ，３２ｂに対応する一方、下部第２塞ぎ前側起立面部３２ｄ’の嵌合突起３２ｄ１’，３２ｄ１’が実施形態３の下部第２塞ぎ部材３２上部の嵌合突起３２ａ，３２ａに対応することになる。

【００８６】

以上のように構成された実施形態４の下部第２塞ぎ部材３２’と、実施形態３の下部第１塞ぎ部材３１とにより本発明に係る実施形態４の方立塞ぎ部材３’が構成可能となり、このような２部材からなる実施形態４の方立塞ぎ部材３’を使用して図１１および図１２に示す外動片引き窓１”の召合せ方立１６ｄ”の下端部に装着すると、図２３および図２４に示すように本発明に係る実施形態４の方立塞ぎ部材３’を取付けることができる。

【００８７】

<本発明に係る実施形態４の方立塞ぎ部材３’のまとめ>

従って、本発明に係る実施形態４の方立塞ぎ部材３’によれば、実施形態３の方立塞ぎ部材３と同様に、召合せ方立１６ｄ”の下端部を覆う方立塞ぎ部材を、下部第１塞ぎ部材３１と下部第２塞ぎ部材３２’の２部材に分割して構成したため、実施形態３の方立塞ぎ部材３と同様に召合せ方立１６ｄ”から容易に取り外すことが可能となり、召合せ方立１６ｄ”の樹脂カバー１６ｄ２”の交換等の召合せ方立１６ｄ”のメンテナンス作業を容易に行うことができる。

【００８８】

特に、実施形態４の方立塞ぎ部材３’では、下部第１塞ぎ部材３１として実施形態３の

10

20

30

40

50

方立塞ぎ部材 3 の下部第 1 塞ぎ部材 3 1 と同じ物を使用することができ、下部第 2 塞ぎ部材 3 2 ' のみ異なる物を用意すれば対応することができるため、製造コストや管理コストを低減することができる。

【 0 0 8 9 】

また、実施形態 4 の方立塞ぎ部材 3 ' の場合も、実施形態 3 の方立塞ぎ部材 3 と同様に、図 1 に示すような室内側固定障子 1 6 の片側 1 枚の室外側可動障子 1 5 を開閉可能に設けた外動片引き窓 1 に適用するだけでなく、図 1 0 に示すような室内側固定障子 1 6 ' の両側にそれぞれ室外側可動障子 1 5 ' を設けた外動片引き窓 1 ' の場合にも上述のような室内側への突出量が大きい召合せ方立 1 6 d " が採用されている場合には当然に適用することができる。

10

【符号の説明】

【 0 0 9 0 】

- 1, 1 ' 外動片引き窓
- 1 1, 1 1 ' 上枠
- 1 1 a, 1 1 a ' 金属製上枠
- 1 1 b, 1 1 b ' 樹脂製上枠
- 1 1 c, 1 1 c ' 枠側気密材
- 1 2, 1 2 ' 下枠
- 1 2 a, 1 2 a ' 金属製下枠
- 1 2 a 1 レール
- 1 2 b, 1 2 b ' 樹脂製下枠
- 1 2 c, 1 2 c ' 枠側気密材
- 1 3, 1 3 ' (内観左側の) 縦枠
- 1 3 a, 1 3 a ' (内観左側の) 金属製縦枠
- 1 3 b, 1 3 b ' (内観左側の) 樹脂製縦枠
- 1 4, 1 4 ' (内観右側の) 縦枠
- 1 4 a, 1 4 a ' (内観右側の) 金属製縦枠
- 1 4 b, 1 4 b ' (内観右側の) 樹脂製縦枠
- 1 5, 1 5 ' 室外側可動障子
- 1 5 a, 1 5 a ' 上框
- 1 5 b, 1 5 b ' 下框
- 1 5 c, 1 5 c ' 縦框
- 1 5 d, 1 5 d ' 召合せ框
- 1 5 e ガラス
- 1 6, 1 6 ' 室内側固定障子
- 1 6 a, 1 6 a ' 上アタッチ
- 1 6 b, 1 6 b ' 下アタッチ
- 1 6 c, 1 6 c ' 縦アタッチ
- 1 6 d, 1 6 d ' 召合せ方立
- 1 6 d 1, 1 6 d 1 " 金属部材
- 1 6 d 1 1, 1 6 d 1 1 " 被係合孔部
- 1 6 d 2, 1 6 d 2 " 樹脂カバー
- 1 6 e ガラス
- 2, 2 ' 方立塞ぎ部材
- 2 1 上部第 1 塞ぎ部材
- 2 1 a 上部第 1 塞ぎ可動障子側面部
- 2 1 a 1 被嵌合凹部
- 2 1 a 2 ネジ通し孔
- 2 1 a 3 塞ぎ部材側気密材
- 2 1 a 4 ネジ孔嵌合凸部

20

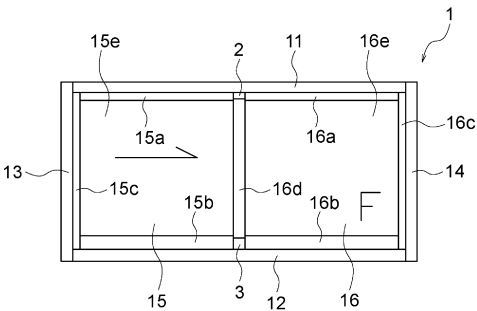
30

40

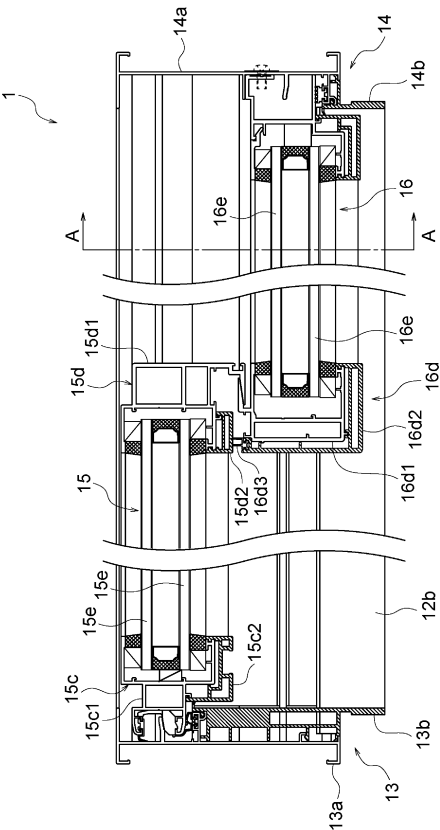
50

2 1 a 5	係合片	
2 1 a 5 1	爪部	
2 1 b	上部第1塞ぎ室内側面部	
2 1 b 1	鉛直面部	
2 1 b 2	傾斜面部	
2 1 b 2 1	係合用凹部	
2 2 , 2 2 '	上部第2塞ぎ部材	
2 2 a , 2 2 a '	上部第2塞ぎ可動障子側面部	
2 2 a 1 , 2 2 a 1 '	嵌合用凸部	
2 2 b , 2 2 b '	上部第2塞ぎ室内側面部	10
2 2 c , 2 2 c '	上部第2塞ぎ上側面部	
2 2 c 1 , 2 2 c 1 '	係合部	
2 2 d '	第2塞ぎ可動障子反対面部	
3 , 3 '	方立塞ぎ部材	
3 1	下部第1塞ぎ部材	
3 1 a	下部第1塞ぎ可動障子側面部	
3 1 a 1	レール用凹部	
3 1 a 2	突出部	
3 1 a 3	塞ぎ部材側気密材	
3 1 a 4	位置決め用凸部	20
3 1 b	下部第1塞ぎ室内側面部	
3 1 b 1	ネジ通し孔	
3 1 b 2	被嵌合片	
3 1 c	下部第1塞ぎ下側面部	
3 1 c 1	下部第2塞ぎ部材受け部	
3 1 c 2	作業用凹部	
3 2 , 3 2 '	下部第2塞ぎ部材	
3 2 a	嵌合突起	
3 2 b	嵌合片	
3 2 a '	下部第2塞ぎ室内側面部	30
3 2 a 1 '	嵌合片	
3 2 b '	下部第2塞ぎ下側面部	
3 2 c '	下部第2塞ぎ左右起立面部	
3 2 d '	下部第2塞ぎ前側起立面部	
3 2 d 1 '	嵌合突起	

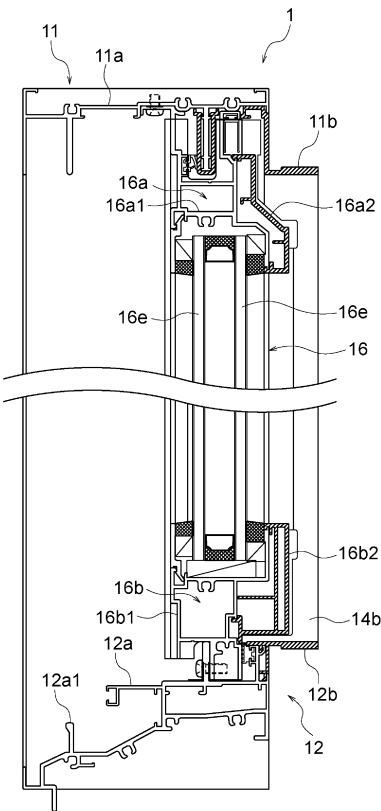
【図面】
【図 1】



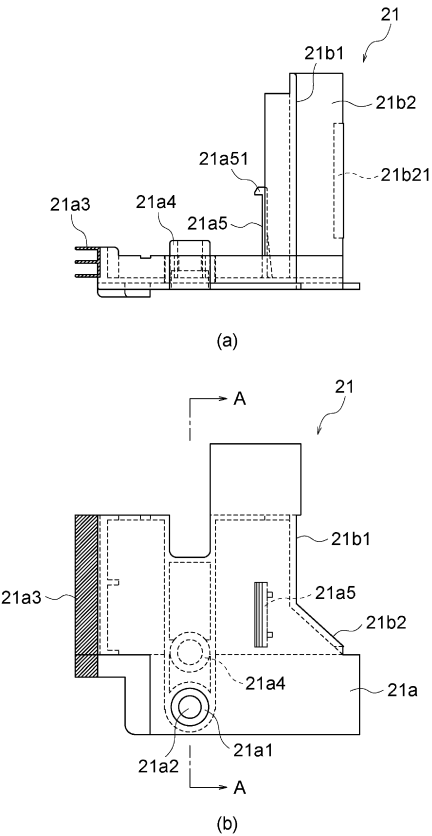
【図 2】



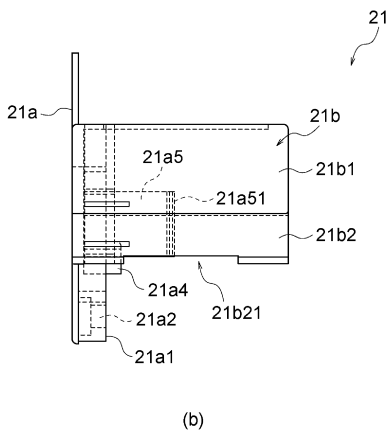
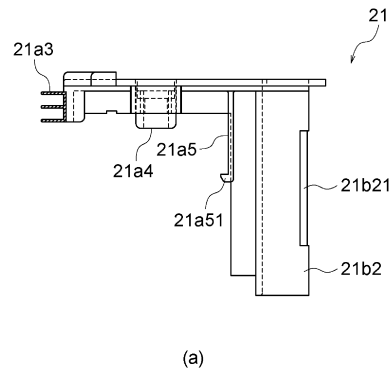
【図 3】



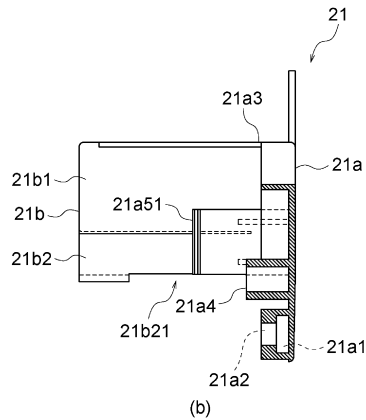
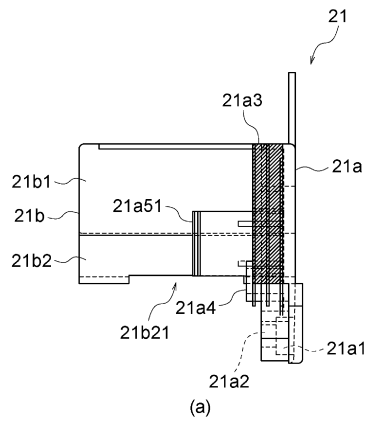
【図 4】



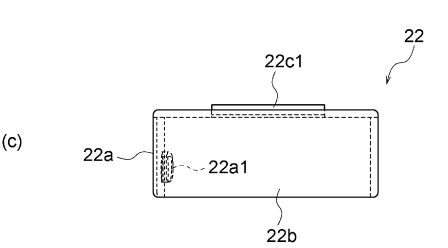
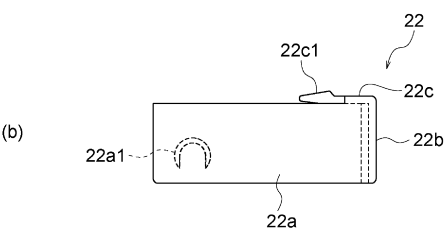
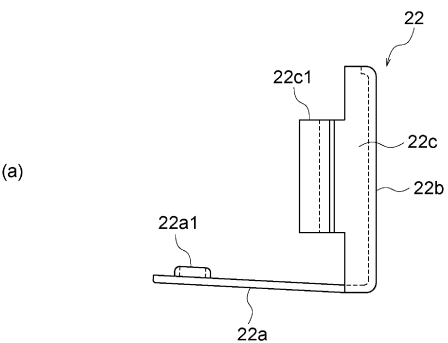
【図 5】



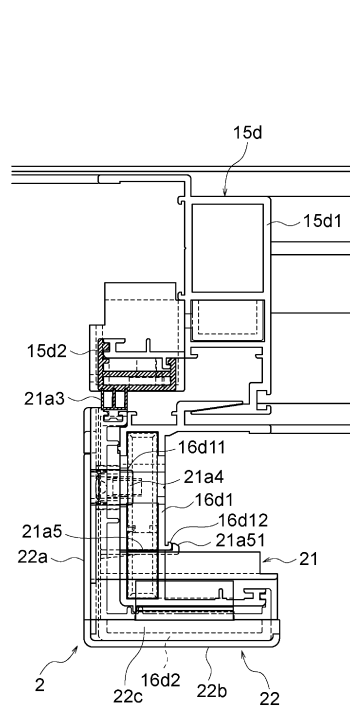
【図 6】



【図 7】



【図 8】



10

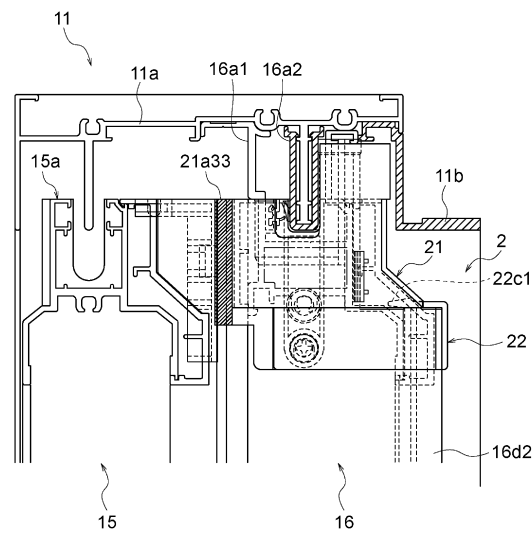
20

30

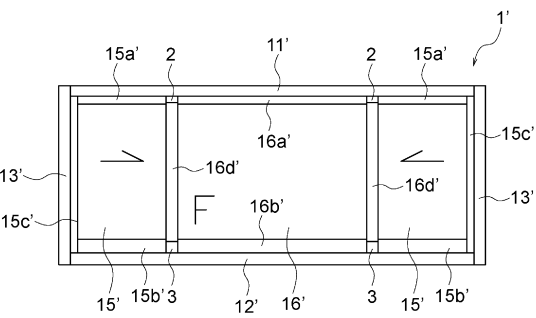
40

50

【図 9】



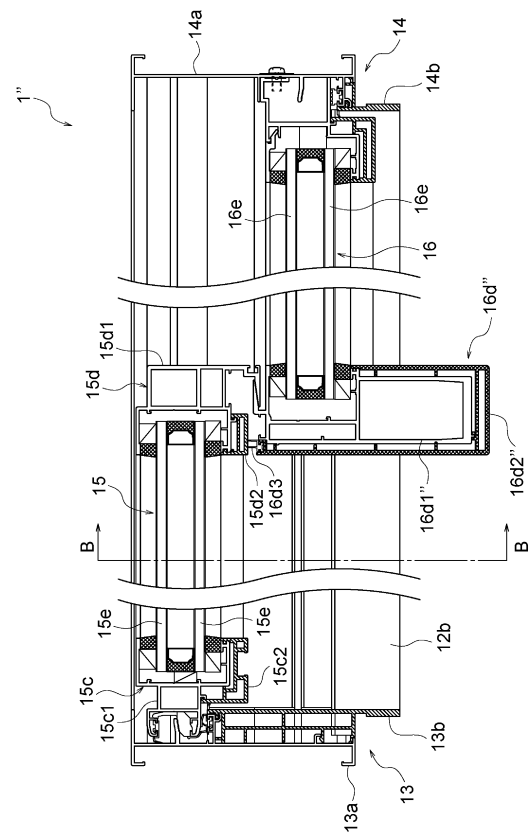
【図 10】



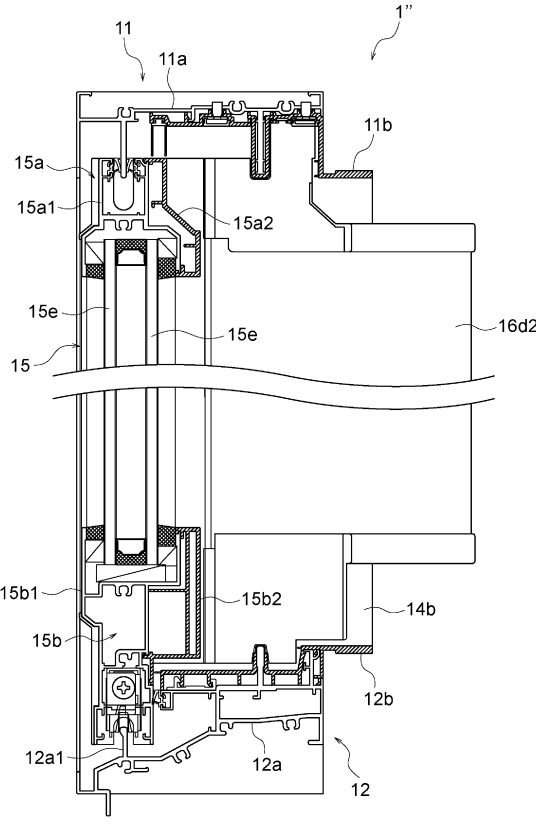
10

20

【図 11】



【図 12】

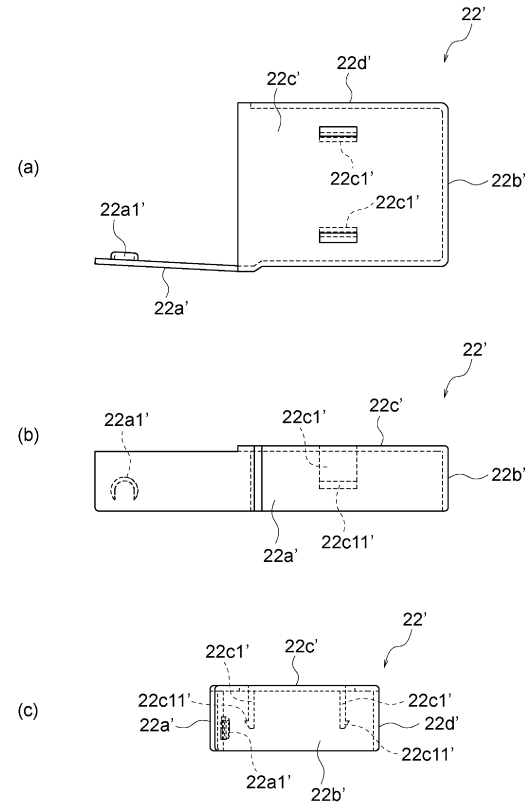


30

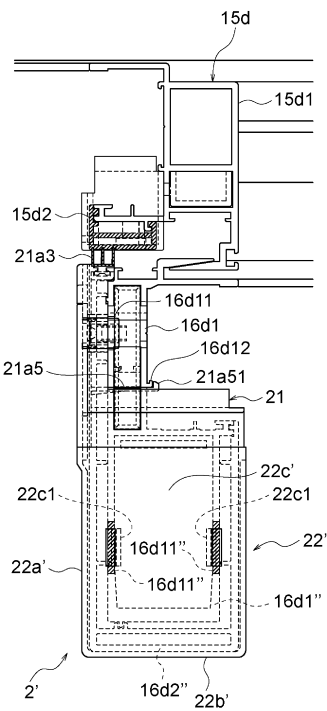
40

50

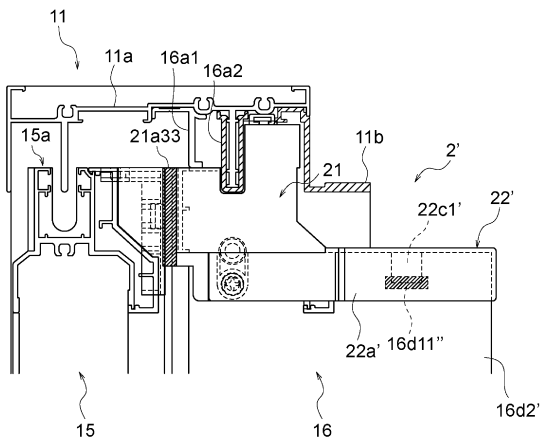
【図 1 3】



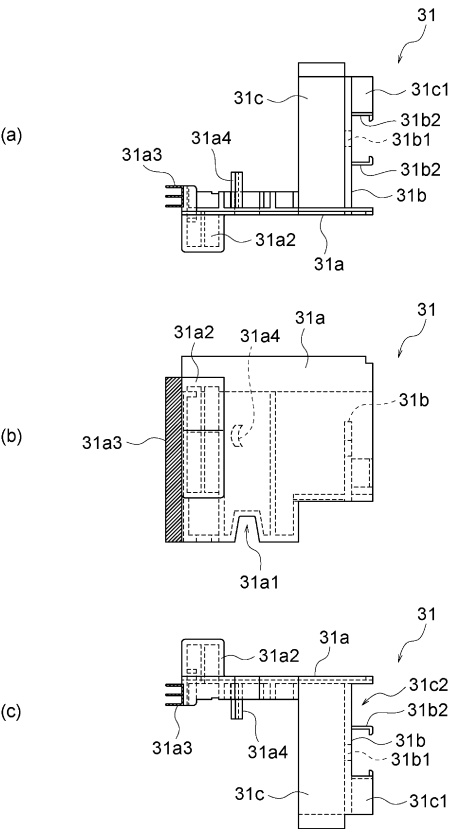
【図 1 4】



【図 1 5】



【図 1 6】



10

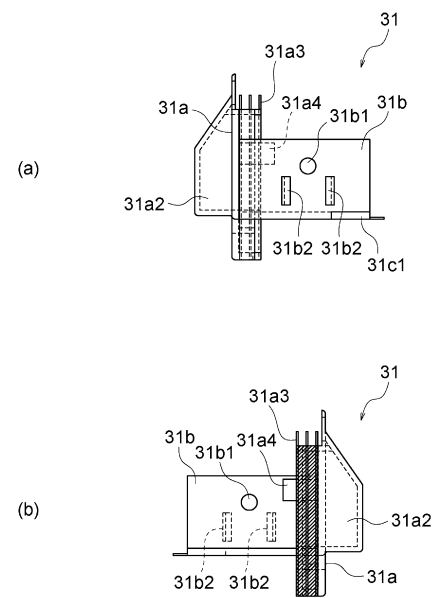
20

30

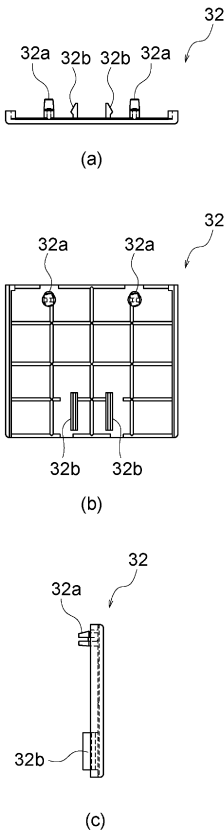
40

50

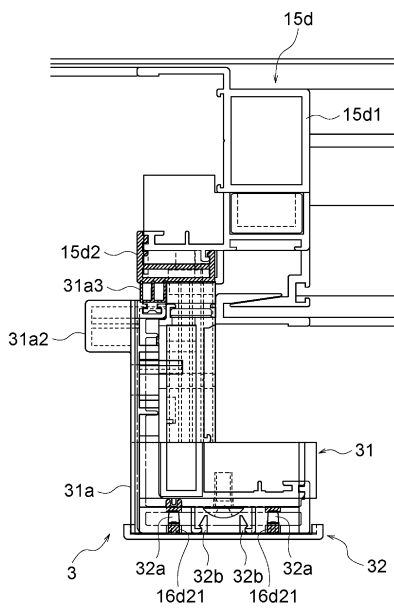
【図 17】



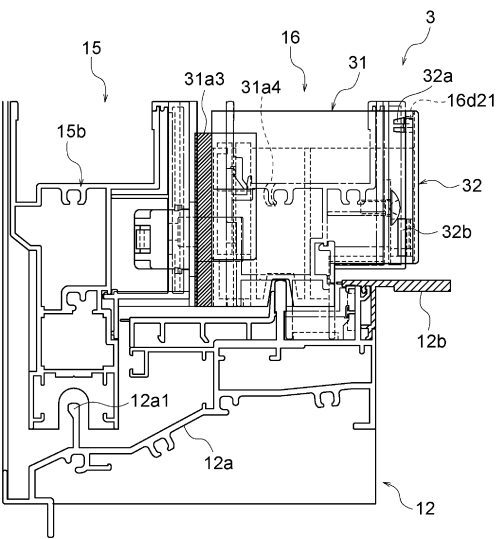
【図 18】



【図 19】



【図 20】



10

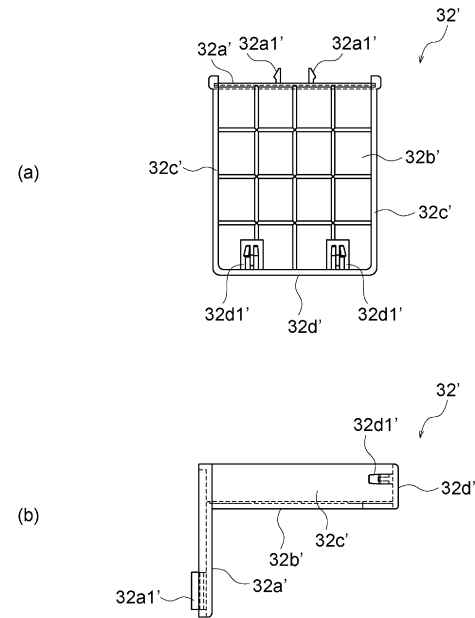
20

30

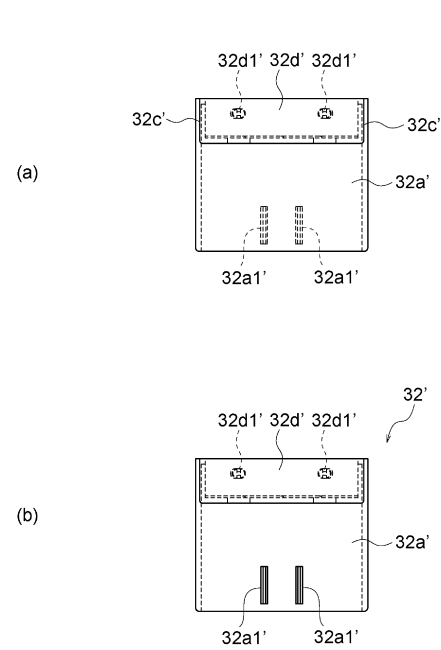
40

50

【図 2 1】



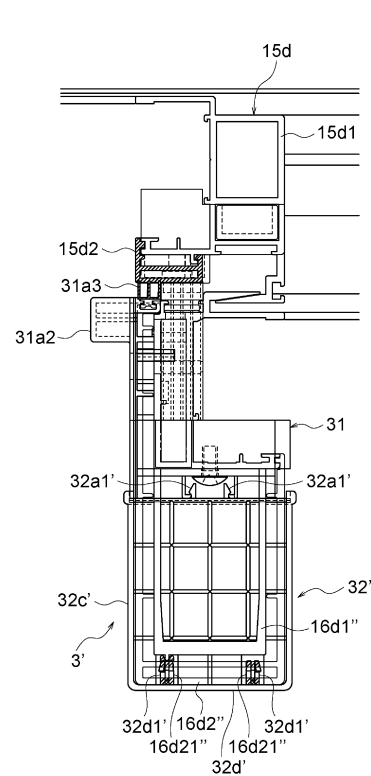
【図 2 2】



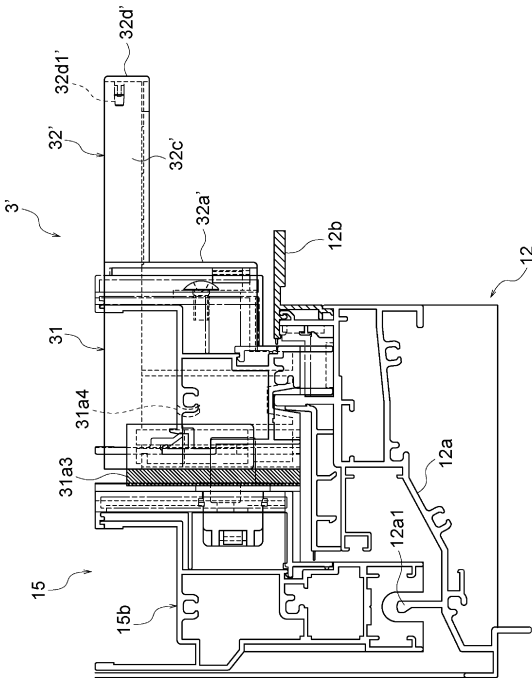
10

20

【図 2 3】



【図 2 4】



30

40

50